

職場の教養

3

2023 MARCH

一般社団法人 倫理研究所

発行部数
200万部



職場の教養

3月号

2023(令和5)年3月1日発行
(毎月1回・1冊定価)
第49巻5号 通巻567号

編集人 三浦貴史
発行人 和田毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rini-pd.or.jp>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月
無料で贈呈しています。入会のお申し込み
お問い合わせは、倫理法人会事務局へどうぞ

令和5年度
倫理経営講演会
テーマ
経営力を磨く
—自己変革に挑む—

倫理経営講演会は、1月～5月、経営者を対象に全国724カ所で開催します。

お問い合わせは各倫理法人会事務局へ(本誌巻末掲載)

倫理経営講演会関連図書

下記3冊は、全国の倫理経営講演会会場でお求めいただけます。



風の
ゆくえ
丸山敏秋 著

世の中にも、わが身にも多様な風が吹いている。
順風もあれば逆風もある。だから人生は面白い。
今日はどんな風が吹いていたか。
明日はどんな風が吹くか。
世の中の様々な風のゆくえを考える、76のコラム。

【目次】

- 一 風紋の章 案するより産むが易し、「親の目」を鍛える他
- 二 風塵の章 叱られる幸せ、学びの王道他
- 三 風花の章 心に「空所」を持つ、相手の鏡に映る自分他
- 四 風光の章 医は意なり、光さず方向に歩む他

B6判 並製296頁 1,200円(税込)



万人幸福の家 解説
[新装丁版]

丸山竹秋 著
B6判 並製/1,800円(税込)



万人幸福の家を読む
「ひとすじのみち」改題・増補

丸山敏秋 著
B6判 並製/1,300円(税込)

所属

氏名

3/6(月)

事前準備を怠らず

今日の心がけ◆安全確認をしつかり行ないましょう

「その扉を開けて 大丈夫?」「車間距離 心のゆとりと 同じ距離」
この二つの標語は、大型イベント施設や公共施設管理など総合ビルメンテナンス業を営むM社の今月の安全推進標語です。
毎春、社員から労働安全と交通安全に関する標語を募り、それぞれ十二の標語を採用し、同社の朝礼時に経営方針や経営理念と共に唱和しています。

他にも労働安全標語には「『やつたはず…』自信なければ 再確認」「安全は体調管理と 身だしなみ」。交通安全標語には「気にしない 後ろの煽りと 携帯電話」「気を付けよう 慣れた道こそ 慎重に」等を唱和してきました。
職場の身の回りには、常に予測が難しい危険が潜んでいるものです。しかし、あらかじめ心や行動の準備を怠らず、事前の備えをしつかり行なつていれば、未然に事故を回避したり、最小限に留めたりすることもできるはずです。

無事故・無違反は偶然によつて成り立つものではありません。職場において、一人ひとりが安全に対する意識や知識を深めて、業務に臨みたいものです。

3/5(日)

物になる

「物になる」という言葉があります。これには、①物事が完成する、物事が成就する、②ひとかどの人物になるという意味があります。

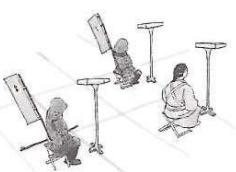
私たちの職場を見回すと、様々な大小の道具や機械、機器があります。例えば大工職人は、鉋、鋸、金槌、錐など多くの道具を使つて仕事を行ないます。オフィス勤務であれば、パソコンや文房具などがあるでしょう。このよう普段使つている道具の手入れを怠らず、大切に扱つていくことで、自分の腕を上げていくことができます。それを継続し、道具と心が通じて仕事ができるよう成長したとき、周囲からも認められるのかもしれません。

のことから昔から職人の世界では、先輩が後輩に対し「あの人は将来、物になる」と、一人前になるという意味で「物」という字を使つていたのでしよう。特に、これがなければ自分の仕事ができないといった大切な物に、愛情と感謝を込めて、ていねいに扱うことを心掛けてみてはいかがでしょうか。

そういうことの積み重ねで、私たちも「物になる」のでしよう。

今日の心がけ◆仕事を極めましょう

1956（昭和31）年に開催されたのが始まりといわれる。現在は桜の名所、舞鶴山山頂に設置された巨大な将棋盤を上空からカメラで撮影し、生配信を行なっている。戦局が見やすく、しかも解説付きで対局を観戦できる。



日本再発見！-空から見る絶景(日本編)-

人間将棋
(山形県天童市)

3/14(火)

こころ みが 心を磨く

今日の心掛け◆感謝の気持ちを高めましょう

小さなことでも、気持ちを込めて取り組むことで、自身の心が磨かれるということは往々にしてあるものです。

Y氏の自宅では、玄関の靴が揃つていなかつたり、食卓には余計な物が置かれたりと、帰宅する度に整理整頓をしていました。そのほかにも、洗濯物を取り込み、食器を洗つても、家族に気づいてもらえない感じていました。そういう状況に少し不満を持つていたのです。

ある日、その状況を同僚に相談してみました。すると、「自分の場合、日中、家事はできないから、できるときは率先してやっている。もちろん、普段やつてもらっている感謝の気持ちも込めているよ」と言われたのです。

このことからY氏は、自分の普段の取り組み方は、感謝の気持ちが込もつていいことを痛感しました。そして、改めて感謝の気持ちで家事にも取り組もうと思つたのです。

何事も感謝の気持ちを忘れず取り組めば、自然と心が磨かれていくでしょう。

日本再発見! -空から見る絶景(日本編)-

しぶとうげ
渋峠

(群馬県中之条町・長野県山ノ内町)

17

3/13(月)

はや と 早めに取り組む

仕事の中で、すぐに取り組まなければならぬことを先延ばしにした結果、期限ギリギリになつてしまつたということはないでしょうか。
Aさんは日頃から、時間を要する作業や、締め切りまで時間がある仕事は先送りにする傾向がありました。

ある日、Aさんは会議用の資料作成を任されました。しかし、まだ期限に余裕があつたため、着手するのを先延ばしにしていました。

しかし、上司から資料作成の進捗状況を確認され、完成していない旨を伝えると「早めに仕上げてほしい」と言わされました。
Aさんは、行なつていた別の仕事を後回しにして急いで会議の資料を作成しました。資料を作り終えた後も、先送りした仕事の締め切りが次々と迫り、Aさんはすぐに資料作りを行なわなかつたことを後悔しました。

慌てて取り組んでミスをしないためにも、やるべき仕事はすぐに取りかかり、余裕を持って仕事を進められるようにしたいものです。

今日の心掛け◆すぐに行動に移しましょう

ら見渡す志賀高原の雄大な景色も素晴らしい、気象状況によっては早朝の時間帯に一面が雲海で覆われた絶景に出会えることもある。冬季は閉鎖区間となっており、例年5月~10月頃までが見学可能な時期。紅葉シーズンがおすすめ。



16

3/20(月)

まもなく社会人

今日の心がけ◆大切な人に感謝を伝えましょう

M子さんは、この時の私は緊張していたんだな」と思いながら、しばらく眺めていた。涙が出てきました。「自分一人の力で成長したのではない。両親が愛情を持つて育てくれたおかげなんだ」という気持ちが湧いてきたのです。思い出を振り返ったM子さんは、実家を離れる日までに、感謝の気持ちを両親に伝えようと決めました。

大学を卒業し、まもなく社会人となるM子さん。実家を離れて、初めて一人暮らしをすることになり、そのための荷造りをしていました。本棚を整理している時に、数冊のアルバムが目にしました。それは、カメラ好きな父親が、M子さんの誕生から現在に至るまでの成長過程を、節目で記録分の姿があります。

M子さんは、この時の私は緊張していたんだな」と思いながら、しばらく眺めていると、幼いM子さんが母親と一緒に写っている写真がありました。「入園式」と書かれている看板を前に、制服を着て、かしこまつている自分の姿があります。

ページを捲っていると、幼いM子さんが母親と一緒に写っている写真がありました。「入園式」と書かれている看板を前に、制服を着て、かしこまつている自分の姿があります。

3/19(日)

中途半端な行動

サッカーの試合では、ゴール前での敵味方入り乱れての攻防をよく目にします。攻撃側にとつては絶好のチャンス、守備側にとつては絶体絶命のピンチです。こうした場面で守備側は、この窮地を脱するため、「クリア」と呼ばれるプレーを選択する場合があります。これはいつたん流れを止めて陣形を立て直すことを目的に、ラインの外や敵陣方向に大きくボールを蹴り出すプレーです。しかし、この「クリア」が中途半端だと、自陣のゴールの近い位置で相手にボールを奪われ、再び危機的状況を招いてしまうことにつながります。これを私たちの職場に当てはめてみると、契約や作業を曖昧な返答で進めたことが原因となり、結果として大きな損失を招くことがあるでしょう。

また、仕事上のトラブルなどで一進も二進もいかななることもあります。その場合は、中途半端に事を処理するのではなく、方針を改めるなどの思い切った対応が必要となります。

何事も中途半端な行動は、好結果にはつながりにくく心得たいものです。

今日の心がけ◆思い切った行動をしましよう

6月中旬から11月上旬の早朝で前日との気温差が大きく、空は晴れているという気象状況が前提。自然現象ゆえ、運も必要というレアな現象だ。枝折峠は国道352号沿いにあり、山頂には駐車場もあるため、車でもアクセスが可能だ。

日本再発見! - 空から見る絶景(日本編) -

枝折峠の滝雲
(新潟県魚沼市)

3/28(火)

小さな違い

今日の心がけ◆言葉遣いに気を配りましょう

忙しくなると、どうしても表現の選び方が雑になってしまいます。その「雑さ」が、誤解を招く場合もあるでしょう。誤解を避けるためにも、普段から、言葉がどう受け止められるかに注意を向けていたいものです。

言葉というのは不思議なもので、表現方法のちょっととした違いによって、伝わる意味合いが変わってしまうことがあります。例えば、一週間前にメールが送られてきて、内容は確認していましたが、まだ返信をしていなかつたとします。その状況で、送り主から、メールがきちんと届いているかどうか、問い合わせがあつた際、どのように対応するでしょうか。問い合わせに対し、「確かに届いております」と返答をすると、相手は、一週間前のメールがきちんと受け取られていると解釈するでしょう。

一方で、「確かに、届いておりました」としたらどうでしょうか。この文面では、「一週間前に確かにメールは受信しているが、それに今、気づいた」という意味合いが強くなりかねません。

3/27(月)

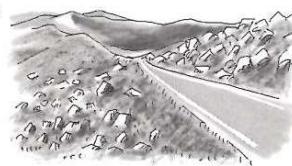
必要な物を引き寄せる

必要な情報を発信していると、関連した人や金銭などが集まつてきます。そうした職場環境は意図してつくり出すことが可能です。まず、身の回りにある文房具や書類、事務用品など、一つひとつの中の物に触れて、必要な物か不要な物かを問いかけます。今は必要ではないけれど、必要な時のために、とりあえず置いておこう」という答えを出して仕舞いこむこともあるでしょう。これは管理という名目で物事の解決を先送りにしている状態かもしれません。

「恐らく、必要になるだろう」と感じた書類や物品を、再び手にして参考にしたり、業務に活用したりという機会は少ないはずです。「もつたいない」という言葉にある通り、身近な生活用品に対して敬意や愛着を持つて接し、物を大切にすることは大事ですが、過ぎるのもよくありません。本当に必要だと思える物を引き寄せるために、不要な物は思い切って、感謝を込めて処分したいものです。

今日の心がけ◆不要な物は処分しましょう

見渡す限りの草原に白い岩が点在し、遠くには山々の稜線、その中を走る長い道。そんな風景を望みながら、ドライブを楽しめる場所が四国にある。高知県と愛媛県の県境、東西約25kmに広がるカルスト台地だ。この四国カルストを縦断す



日本再発見! -空から見る絶景(日本編)-

しこく
四国カルスト
(高知県・愛媛県)